

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所 1号機の出力復帰について

平成 16 年 7 月 5 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所 1 号機（沸騰水型、定格出力 110 万キロワット）は、定格熱出力一定運転中のところ、平成 16 年 6 月 21 日午後 3 時 50 分頃、復水器の真空度が低下し、電気出力も約 112 万キロワットから徐々に約 102 万キロワットまで降下しました。その後、復水器の真空度を回復させるために、午後 4 時 3 分、電気出力を約 102 万キロワットから約 80 万キロワットまで手動にて降下させました。これにより復水器の真空度は正常値に復帰しております。（6 月 21 日お知らせ済み）

1 号機は、現在も約 80 万キロワットで運転を継続しておりますが、これまでの調査の結果、原子炉の安全性及び運転に影響を与える系統には異常のないことを確認いたしました。従いまして本日夕刻から出力を定格熱出力まで復帰する操作を行う予定です。

今回の事象は、水素・酸素注入設備^(注)に不具合が発生しバックアップ用酸素ボンベから酸素が自動的に復水器の排気配管へ多量に注入されたことにより、復水器の真空度低下に至ったものと推定しております。

当該設備は事象発生時からその運用を停止しておりますが、同設備による水素注入は予防保全対策として実施しているもので、原子炉の運転に直接的な影響を与えることはありません。

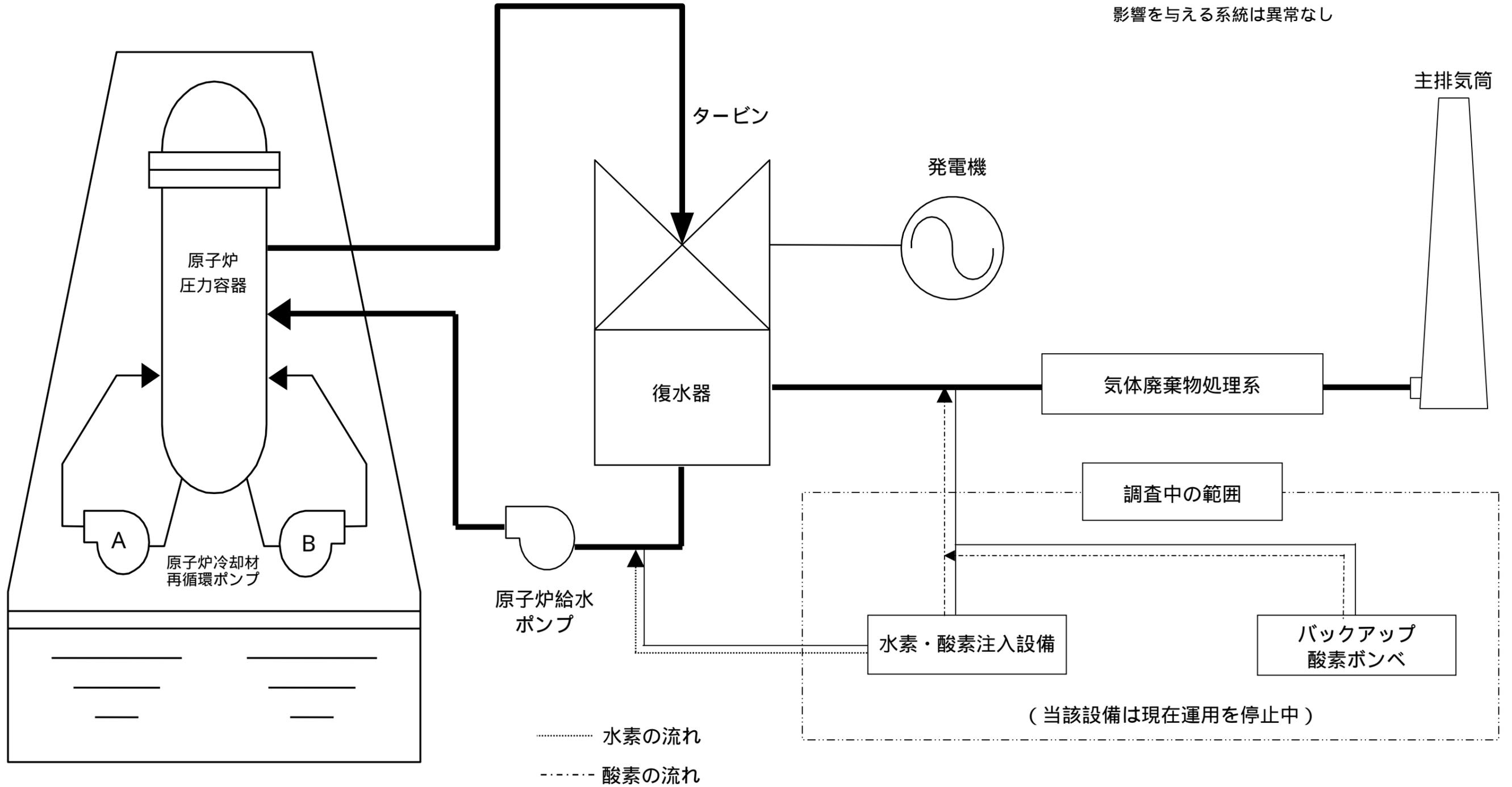
なお、当該設備については、今後、さらに調査を継続するとともに、対策について検討を進めてまいります。

以上

(注)

1 号機は、原子炉圧力容器内構造物の応力腐食割れの予防保全対策のため、原子炉給水中に水素注入しておりますが、復水器に移行する余分な水素を安全に処理するため、復水器の排気の配管にこの水素注入量に見合うだけの酸素を注入し水に戻しております。

原子炉の安全性及び運転に
影響を与える系統は異常なし



系統概略図